

テトスへの手紙3章5-6節 「聖霊による救い」

1A 御霊の約束

- 1B 契約を破った民
- 2B 心に置かれた律法
- 3B 主から教えられる民
- 4B 罪の拭き取り
- 5B 新しい心

2A 不法からの救い

- 1B 以前の生活
- 2B 望みなき将来

3A 神の憐れみ

- 1B 慈しみと愛
- 2B 義のわざによらない救い
- 3B 聖霊による再生
- 4B 刷新による洗い

本文

テトスへの手紙 3 章を開いてください。私たちの聖書通読の学びは、今日でテトスへの手紙の最後に来ています。午後に 3 章を一節ずつ学びますが、今朝は 5-6 節に注目します。「⁵神は、私たちが行った義のわざによってではなく、ご自分のあわれみによって、聖霊による再生と刷新の洗いをもって、私たちを救ってくださいました。⁶神はこの聖霊を、私たちの救い主イエス・キリストによって、私たちに豊かに注いでくださったのです。」今日は、じっくりと聖霊のお働きを学びます。聖霊のお働きの中でも、私たちを救ってくださるお働きです。

私たちは、二週間後にカルバリーチャペル西東京との合同修養会に参加します。修養会のテーマは、「実践： 実践、御霊に導かれて」というものです。御霊の働きの中で、大きなものは、私たちを救ってくださることです。不正や汚れから洗い清め、私たちを一新してくださることです。それが、自分の頑張りではどうしようもなくなっているところ、主が介入して、洗い清めてくださいました。そこにある神の慈しみ深さ、憐れみを見て行きたいと思います。

1A 御霊の約束

この言葉、聖霊による再生と刷新については、神の新しい契約の約束が背景になっています。エレミヤとエゼキエルが預言しています。まず、エレミヤが預言したところを読んでみましょう。31 章 31-34 節です。

31 見よ、その時代が来る——【主】のことば——。そのとき、わたしはイスラエルの家およびユダの家と、新しい契約を結ぶ。32 その契約は、わたしが彼らの先祖の手を取って、エジプトの地から導き出した日に、彼らと結んだ契約のようではない。わたしは彼らの主であったのに、彼らはわたしの契約を破った——【主】のことば——。33 これらの日の後に、わたしがイスラエルの家と結ぶ契約はこうである——【主】のことば——。わたしは、わたしの律法を彼らのただ中に置き、彼らの心にこれを書き記す。わたしは彼らの神となり、彼らはわたしの民となる。34 彼らはもはや、それぞれ隣人に、あるいはそれぞれ兄弟に、『【主】を知れ』と言って教えることはない。彼らがみな、身分の低い者から高い者まで、わたしを知るようになるからだ——【主】のことば——。わたしが彼らの不義を赦し、もはや彼らの罪を思い起こさないからだ。」

1B 契約を破った民

イスラエルの民の歴史は、契約を破った歴史と言っても過言ではありません。主が、エジプトからイスラエルの民を贖い出しました。そして、シナイ山で契約を結びました。それは、彼らが主の命令に聞き従うならば、彼らを祝福し、宝の民とするというものです。ところが、彼らが約束の、カナン
の地に入ってから、彼らは神に背き、命令をことごとく破る道を辿りました。主は、憐れみによって、彼らに悔い改める機会を与えられ、時々、ご自身に彼らが立ち変える時もありましたが、度重なる警告にもかかわらず、言うことを聞かなかった彼らは、ついに、約束の地から引き抜かれ、バビロンに捕え移されることとなります。

2B 心に置かれた律法

エレミヤのこの預言は、こうした民の失敗を背景にしているものです。彼らが、不従順であることが明らかにされました。しかし主は、彼らを深く憐れんでおられます。彼らの行いではなく、ご自身の真実と慈しみによって、契約を更新してくださるのです。「新しい契約」です。

その内容の最も大きな特徴は、「わたしは、わたしの律法を彼らのただ中に置き、彼らの心にこれを書き記す。」というところです。古い契約では、石の板に掟が書き記されていました。その、刻まれた神のことばに、民が守っていくようにするものでした。しかし、彼らが歴史を通じて、不従順であったということは、これは彼らの努力不足ということではなく、心そのものが墮落している、頑なになっているという問題があったのです。罪によって汚されている心では、どんなに正しく、清いことをしようとしても、結局は、悪いこと、汚れたことをしてしまうのです。

そこで、主は、彼らの間に、また彼らの心に、律法を書き記すことを行われます。それが、神ご自身の霊が降り注がれることによって行われるのです。心を洗い清め、新しくして、神のことばに従順に聞き従うことができるようにしてくださいました。外側の行いを正す前に、内側を変革させ、その変えられた心によって、命じられたことを守り行うようにしてくださることを約束しておられます。

ロマ 12 章 2 節には、こう書かれています。「この世と調子を合わせてはいけません。むしろ、心を新たにすることで、自分を変えていただきなさい。そうすれば、神のみこころは何か、すなわち、何が良いことで、神に喜ばれ、完全であるのかを見分けるようになります。」この世と調子を合わせるという言葉は、「型にはめる」という意味になります。世の流れ、流行という型に自分を合わせるのです。しかし、キリスト者の変革は、「心を新たにすることで、自分を変えていただく」ということです。内側から変えられているので、主に従うことが、外から押し付けられるものではなく、内側から望み、願っていることを実行することなのです。

3B 主から教えられる民

そして、エレミヤの預言は、「彼らはもはや、それぞれ隣人に、あるいはそれぞれ兄弟に、『【主】を知れ』と言って教えることはない。」と語っています。主は、私たちと関係を結んでくださいました。マニュアルや規則を守るのと、自分の愛する人から、「これをして」と頼まれるのでは、全く意味が違いますね。誰か他の人から言われて、それで行うのではなく、すでに愛され、そして愛する、人格的な関係があるから、それを言われた時に心から行うことができるのです。

それで、他の人から教えられる必要はないと言っています。これは、教師による教えが必要ないということではないのです。主は、教える賜物を御霊によって人々に与えます。しかし、人がみことばを教えている時には、その人が権威ではなく、聖霊が権威となって、聖霊が教師となって教えておられるのです。私はここで教えています、みなさんの心の奥にあること、何を考えていることなど、知る由もありません。しかし、聖霊は、心の隅まで知っておられます。そして、聖霊が、みことばによって、一人一人の心に語りかけられるのです。「Iヨハ 2:27 しかし、あなたがたのうちには、御子から受けた注ぎの油がとどまっているので、だれかに教えてもらう必要はありません。その注ぎの油が、すべてについてあなたがたに教えてくれます。それは真理であって偽りではありませんから、あなたがたは教えられたとおりに、御子のうちにとどまりなさい。」注ぎの油とは、聖霊のことです。この方が教えてくださり、真理へと導いてくださいます。

4B 罪の拭い取り

そして、エレミヤは、「わたしが彼らの不義を赦し、もはや彼らの罪を思い起こさないからだ。」と言いました。不義を赦し、思い起こしません。赦しに徹するならば、罪を思い起こさないことです。過去に起こった事実を忘れるということではありません。けれども、あたかも今も非があるように、罪を取り出すことです。神は、罪を赦される時は、もはや思い起こさないとお決めになって赦されます。これが、主が約束されたことです。

5B 新しい心

そして、エレミヤとほぼ同じ時期に預言していたエゼキエルがいます。エレミヤはエルサレムで預言していましたが、エゼキエルは捕囚の民として、すでにバビロンにいますが、同じ約束を次の

ように預言しています。「36:25-27 わたしがきよい水をあなたがたの上に振りかけるそのとき、あなたがたはすべての汚れからきよくなる。わたしはすべての偶像の汚れからあなたがたをきよめ、
26 あなたがたに新しい心を与え、あなたがたのうちに新しい霊を与える。わたしはあなたがたのからだから石の心を取り除き、あなたがたに肉の心を与える。27 わたしの霊をあなたがたのうちに授けて、わたしの掟に従って歩み、わたしの定めを守り行うようにする。」汚れから清めるために、主は、新しい霊を下さいます。それによって、彼らに新しい心が与えられます。それによって、主の命じられたことを守り行うことができるようにされます。

2A 不法からの救い

これが、パウロがテトスに語っている、御霊による救いの背景です。神のこのような約束があって、それが実現したのです。

1B 以前の生活

神が救われたという時、何から救われたのでしょうか？3 節を見てください、「私たちも以前は、愚かで、不従順で、迷っていた者であり、いろいろな欲望と快樂の奴隷になり、悪意とねたみのうちに生活し、人から憎まれ、互いに憎み合う者でした。」これは、テスがいるクレタ人の典型的な生き方でした。このような生活をしていて、そこから救われたのです。愚かなことをしていました。権威に対して不従順です。そして、道を外して迷っています。それから、いろいろな欲望や快樂の奴隷になっていました。悪意と妬みに満ちていました。憎しみ合っていました。

2B 望みなき将来

エペソ人への手紙で、パウロは、このような生活のことを次のように話しています。「2:12 そのころは、キリストから遠く離れ、イスラエルの民から除外され、約束の契約については他国人で、この世にあって望みもなく、神もない者たちでした。」望みがなかったのです。

3A 神の憐れみ

1B 慈しみと愛

しかし、そこで神が憐れみを示してくださいました。4 節を見ます、「しかし、私たちの救い主である神のいつくしみと人に対する愛が現れたとき、」神が慈しんでくださったのです。人に対して愛してくださいました。このような汚れ、不義の中に陥っている中を見て、憐れんでくださいました。

2B 義のわざによらない救い

そして 5 節が大切です、「**私たちが行った義のわざによってではなく、ご自分のあわれみによって**」というところです。神の救いの約束の背景を思い出してください。律法が与えられたけれども、それをことごとく破り、主に背を向けてきたのがイスラエルです。自分たちの義のわざは、ことごとく役に立たないことを、嫌というほど知らしめられたのです。イザヤ書には、「64:6 私たちはみな、

汚れた者のようになり、その義はみな、不潔な衣のようです。私たちはみな、木の葉のように枯れ、その咎は風のように私たちを吹き上げます。」自分たちが義を見せているようであっても、それは所詮、不潔な衣のようなのです。

主は、そのことを知っておられるからこそ、だからこそ、私たちの義によらず、もっぱらご自分の憐れみによって救うことを決められました。しかし、なんとまあ、多くの人が自分の義によって救われると思っていることでしょうか！自分が何か正しいことをしていると、自分を欺いているのです。イエス様が、強く臨まれた人々は、罪人や遊女ではありませんでした。私たちは、元刑務所にいた人や、風俗にいた人が教会に来たとしたら、少し身構えてしまうのではないのでしょうか？いいえ、イエス様は、そういった人々が自分は不潔な衣を守っていると分かっているのです。イエス様が強く臨まれたのは、自分は正しいとする者たち、パリサイ派や律法学者たちなのです。そして私たちは、そのようにきちんとしているように見える人たちが、教会に来るとほっとしたりしませんか？これこそが、間違っているのです。私たちは悔い改める必要があります。それは、神の憐れみではなく、自分たちの義のわざによって救われると欺くからです。

3B 聖霊による再生

そして、聖霊は、その憐れみの中で私たちに注がれます。「**聖霊による再生**」とあります。聖霊は、いのちの霊です。神が初めの人を造られる時に、土のちりから造られましたが、それだけでは生きていませんでした。ご自身の息をその鼻に吹きかけられて、人は生きたものとなったのです。その息こそが、御霊のいのちです。人を生かした同じ聖霊が、再び私たちを生かしてくださいます。

ユダヤ人で、パリサイ派で、しかも最高法院の議員であったニコデモが、イエス様のところに来ました。彼に対して、イエス様は、「ヨハネ 3:3 人は、新しく生まれなければ、神の国を見ることはできません。」と言われました。ここで、ニコデモに対して、自分の意欲や力では全く、神の国に入れないうことを教えられたのです。ニコデモは、「人は、老いていながら、どうやって生まれることができますか。もう一度、母の胎に入って生まれることができるでしょうか。」彼は、神を信じていながら、神によって生まれるという奇跡は信じられていなかったのです。

イエス様は、「人は、水と御霊によらなければ、神の国に入ることはできません。肉によって生まれた者は肉です。御霊によって生まれた者は霊です。」と言われます。私たち肉体として生まれた者が、どんなに意欲を出そうとも、意志を持っていても、それは所詮、肉なのです。主はそれを受け入れられないのです。主は霊です。この方の国に入るには、自分の内には何もその条件がないのです。上から生まれる、神から生まれるしかないのです。私たちが赤ん坊として生まれる時に、何かできることはあったでしょうか？何一つありませんね。私たちも、全く同じように、神の国に入るのに、私たちが自分でできることは、何一つないのです。

ニコデモは、「どうして、そのようなことがあり得るでしょうか？」と聞きました。イエス様は、「あなたはイスラエルの教師なのに、そのことが分からないのですか。」と言われます。そうです、エゼキエルの預言に、「36:26 あなたがたに新しい心を与え、あなたがたのうちに新しい霊を与える。」とあったのです。神を信じていると言いながら、人のできる領域でしか物事を考えられなかったのです。神を信じるとは、人にはできないことも、神にはできると信じているのです。そしてそのことに期待して生きて、祈り、希望を持っているのです。

そしてイエス様は、人々が毒によって死んでいったのに、あるものを見たら生きた話をされました。青銅の蛇です。旗竿に青銅の蛇をかけて、それを見るようにしなさいとモーセに主は命じられました。見た者たちは生きました。同じように、十字架の木にかけられた方、キリストを仰ぎ見るならば、この方を信じさえすれば、死んでいたのに生きるのです。ヨハネは福音書で、こう言いました。「ヨハ 1:12-13 しかし、この方を受け入れた人々、すなわち、その名を信じた人々には、神の子どもとなる特権をお与えになった。この人々は、血によってではなく、肉の望むところでも人の意志によってもなく、ただ、神によって生まれたのである。」

4B 刷新による洗い

そして、「**刷新の洗いをもって**」神が救われたと言っています。自分の汚れた思いや行いは、自分自身で洗い清めることはできないということです。聖霊によって刷新されることによって、初めて洗い清められるのです！

クレタ人と同じように、悪評があったのはコリント人です。コリント人のようだとすると、それは泥酔して、破廉恥なことをしている人ということと同義語でした。しかし、そのような人々を、御霊は洗い、聖なる者とし、義と認められるのです。「I コリ 6:9-11 あなたがたは知らないのですか。正しくない者は神の国を相続できません。思い違いをしてはいけません。淫らな行いをする者、偶像を拝む者、姦淫をする者、男娼となる者、男色をする者、盗む者、貪欲な者、酒におぼれる者、そしめる者、奪い取る者はみな、神の国を相続することができません。あなたがたのうちのある人たちは、以前はそのような者でした。しかし、主イエス・キリストの御名と私たちの神の御霊によって、あなたがたは洗われ、聖なる者とされ、義と認められたのです。」

フェイスブックのあるグループで、覚醒剤を使用していたことで牢屋に入っていた人が出て来て、クリスチャンになったけれども、再び手を付けたと言うニュースを紹介している人がいました。それである人が、「一度、手にすると治らないから。それは、クリスチャンになったとて同じだ。」と言っていました。本当にそうなのでしょうか？もちろん、同じ過ちを繰り返してしまうということはあるでしょう。けれども、私たちが救われたという時に、こうしたことから洗い、聖なる者とする御霊によって救われたことを意味するのではないのでしょうか？私は書きました。「私は、数多くの元麻薬常習者を知っています。私が、アメリカで牧会の学びをする学校にいた時に、周りにいた者たちの九

割は、そうだったのですよ。」

もう一度、私たちは主が言われた初めの愛に戻る必要があります。どこから落ちたのかを思い出して、悔い改め、初めの行いをする必要があります。どういうことか？と言いますと、私たちが救われたのは、どうやったなのか？ということなのです。私たちがどこかで、自分たち人間のものさしで、救いについて論じていることはないでしょうか？何か、自分たちの義の行いで救われると思ってしまうようなことはないでしょうか？神を信じているはずなのに、ニコデモのように自分たちでできることだけで、物事を考えていることはないでしょうか？

御霊によって救われたのは、義の行いではなく、ただ信じただけなのです。私たちが御霊の力を受けない理由は、御霊が救い、聖め、力を与えるということを信じていないからです。ただ、信じるだけで、御霊が働かれます。私たちの周りの人々が救われるのも、御霊によって神が救われるということを知るのです。イエス様は、選ばれた者たちの神への叫び求め、昼も夜も叫び求めていることに、いつまでも放っておかれることがあろうか？しかし、「人の子が来るとき、はたして地上に信仰が見られるでしょうか。」とされています(ルカ 18:8)。問題は信仰なのです。神は、憐れみ深い方です。どんなに汚れと不義にまみれている人でも、全く新しい人に洗うことがおできになる方です。